

## 第2回NGO-JICA協議会@北海道報告

名古屋NGOセンター 中島隆宏

日時：2017年10月16日ー17日

会場：JICA北海道、滝川市

参加者：NGO側47名、JICA側60名（TV会議含む）名古屋からは中島と龍田が出席

オブザーバー：外務省 2名

目的：

1. 「NGOと多様なアクターの連携促進」事例発表と意見交換
2. 2017年度NGO-JICA協議会年間テーマ中間報告
3. その他議題（環境社会配慮ガイドラインのレビュー調査方法に関して、ODA本体業務参画におけるNGO-JICAの連携強化促進について）
4. ネットワークNGOとJICAの意見交換会

### ★ NGO側スケジュール

日にち	時間	内容	場所	参加対象者
10/16 (月)	12:00-14:00	NGO打合せ (ネットワーク型NGO等との 意見交換会準備)	JICA 北海道 (札幌)	ネットワークNGO
	14:00-14:50	NGO打合せ (NGO-JICA協議会ブリーフ)	JICA 北海道 (札幌)	NGO-JICA協議会 に参加される全 NGO
	15:00-18:00	第2回NGO-JICA 協議会(第1 部)	JICA 北海道 (札幌)	NGO-JICA協議会 に参加される全 NGO
	18:00-18:30	ほっかいどう地球ひろば見学		
	18:30-21:30	懇親会		
10/17 (火)	9:00-11:00	ネットワークNGO等との意見 交換会	JICA 北海道 (札幌)	ネットワークNGO
	バス移動11:15-	移動（車内で昼食／各自準備）		
	13:00-15:30	第2回NGO-JICA 協議会(第2 部)	北海道滝川市 (滝川ステイクホルダーとの意見交換会)	
	15:45頃	バス移動		
	18:00頃	新千歳空港		

### 1. 地域 NW-NGO 間での連携について (JANIC からの提案 — 『英国 NGO 連携調査に基づいて』)

全国における地域型ネットワーク NGO の組織化については、初めてのことだと思います。市民社会スペースが狭まる中、これらのネットワーク NGO が連携し政策提言することにより、市民社会を取り巻く環境が改善されることを期待しています。地方によってネットワーク NGO の取り組みが異なります。国際協力 NGO が少ない、人がいない、など地方のネットワーク NGO の課題は大都市のそれとは異なる現状があります。それらの違いを押さえたいうえでの対等な連携を望みます。

### 2. JICA と地域 NW-NGO 等の連携について

ネットワーク NGO 自体の使命が、いまどこにあるのか。いろいろと考えさせられました。地方のネットワーク NGO も都市のそれもそれぞれ存亡の危機にあり、一方で JICA にとっては協働のアクターが多様化し NGO は相対的位置が低下しており、かつ、地方の JICA はマンパワーが削られていると思います。双方に余裕がない中、さらに効率化が問われているようなプレッシャーがあります。

NGO 側としては市民社会スペースの狭窄化という外部からの大きな脅威の中にさらされるという状況もあります。

そこにおいて、JICA は効率化のみならず、ネットワーク NGO を含む NGO や市民社会の環境を、より良いものにするにも、協働していただければ、市民の国際協力への参加が高まります。その中身は協働により社会への市民社会への啓発を進め、また、NGO、NPO の政策環境をより良いものにしていく、二つの方向があるかと考えます。

結果、ネットワーク NGO を強化していくことにもつながり、それを通しての各地域の JICA と NGO の協働を効果的なものにしていくのではないのでしょうか。

### 3. JICA のネットワーク NGO への期待 (SDG s の取り組み強化、すそ野拡大)

JICA の期待として NGO やその他多様なアクターによるイノベティブな取り組みの活用があります。

中部のネットワーク NGO は地域の中にある NPO を網羅しているわけではないので、JICA が期待しているような、多様なアクターを巻き込んだ SDG s 達成のための働きについては、期待が過大であると思います。それを担うためには、より強固な組織が必要で、人的、財的投入が必要だと思います。他の地域のネットワーク NGO も同様の課題があります。

### 4. 滝川市の視察について

山内さんというキーパーソンが行政の他の課や、地域の機関、人々を巻き込みがすごいと思いました。人の心を動かす行政マンでした。しっかりとしたビジョンをもって、地域の資源を活用して、JICA 研修を受け入れる戦略も関心しました。そして中学生、高校生たちを海外研修に送り、滝川から離れても、また、帰ってくるようなイベントをうって、町を活性化しようとしていること、また、巻き込みは滝川のみならず、周辺の市町村にもわたっていることが長年の関わりの成果でした。国際交流員の活用など包括的なアプローチと理解しました。